

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3393500081		
法人名	特定非営利活動法人 ラヴィラント		
事業所名	グループホーム パオパブの木		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町富東谷438		
自己評価作成日	平成29年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393500081-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393500081-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成29年2月1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かな地域にある施設で、散歩やドライブで季節の景色を楽しみながら生活しています。個々のペースに合わせた生活をしながら、みんなで集まって体操やレク等を楽しんだり、家事等の個々の力に応じた役割を持っていただき、できる限り自立した生活が送れるよう支援しています。今年度は家族や地域の方をお招きして昼食会を行い、ご家族、地域の方からまたしてほしいと嬉しい声をいただきました。また、災害訓練では多くの地域のみなさん、消防団のみなさんにご協力いただき、緊急時の避難について地域のみなさんと共に学ぶことができました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

丁度設立してから丸3年経過したホームを訪問した。外は深い雪に覆われていたが、ホームの中は暖かく、利用者は節分のお面を皆で作っていた。地域の保育園の子供が訪問してくれたり、地域の行事にも参加している。昨年の目標達成計画にも地域の人達と積極的に交流をして利用者や家族の活性化を図りたいと計画し、その一つとして近所の人や家族を招いて昼食会を開催して昼食を楽しんだ。又、町内のボランティアグループ「おさわがせ隊」がホームを訪ねてくれ、歌や踊り、どじょう捌い、三味線演奏等で利用者も踊りをして楽しんだそうだ。四季を通して色々な行事の企画があり、利用者は楽しい生活を送っている様子を聞いたりホームの「たより」で知ることが出来た。職員全員が利用者一人ひとりの思いや希望を共有して、生きがいを創り出しながらホームでの生活の楽しい思い出を想起させられるようなケアをしていこうと考えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員が見られる場所に掲示してあり、意識できるようにしています。会議の際に必ず理念について伝えるようにしており、日々の実践につながるよう考えています。	職員会議等で理念を掘り下げて話し合い、ホームの目標達成計画に「利用者のライフスタイル、個性、価値観の把握、バックグラウンドに関する情報収集を深め、職員全員で情報共有し、介護に活かそう」と掲げ、全員で取り組んでいる。また、職員が年間の個人目標を設定し、毎月の評価を記録表に記述していきながら、理念に対する意識付けを深めている。利用者は、温かい見守りの行き届いた環境の中でゆったりと暮らしていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させていただいたり、今年度は保育園児との交流を隔月で行っています。7月には昼食会を開き、事業所と家族と地域とで交流ができ、家族の方からも「いろんな方とお話しできて良かった」という感想がありました。	ホームの運営推進会議委員である行政関係者、地域組織団体(町内会、民生委員、婦人会、老人クラブ、公民館等)多くの関係者を通じて地域との接点が多岐に亘っているため、付き合いの幅が拡大、強化しているのがこのホームの大きな特徴である。地域の団体にホームのスペースを提供したり、認知症に関する情報を「バオバブ便り」に掲載して地域に配布して理解を深めていく等、福祉施設としての役割を担い、地域に深く根ざしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症の話をしたり、「バオバブだより」に不定期で認知症について書かせていただき、家族や地域に配布しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、毎月の活動状況、事故報告、評価結果等の報告をし、質問や意見をいただきます。職員にも周知したり話し合ったりして実践につながるようしています。	行政、包括支援センター、協力医、協力歯科医、老人クラブ会長、町内会長、婦人会長、公民館長、地区振興センター長、消防署、利用者とその家族等、多くの出席者で開催している。特に災害対策が主に協議されており、公民館活動との連携の在り方や、地域と家族とホームを繋ぐ昼食会等を推進会議から発案し、実現された多くの取り組みが実現していることを確認する事ができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者には運営推進会議に参加していただき、事業所の実情やケアについて知ってもらっています。また、何かあればその都度相談にのっていただきます。	町独自がホームの運営を支える体制を敷いており、地域住民組織の全代表が運営推進会議委員としてホームを支えていこうとする姿勢が、山間地特有の連帯意識の強さとなっている。毎月発行して地域にも配布している「バオバブ☆ねむだより」に、「認知症を知ろう」というシリーズを掲載している事にも一目置きたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行ったり、身体拘束廃止委員会を開いて、身体拘束をしないケアに努めています。	身体拘束、虐待に関する研修を行い、職員の正しい理解を深めている。ベッド上で立ち上がる危険行為等、具体的事例をもとに話し合いを行って、徹底理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町内の研修会への参加を促しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明を行い、理解・納得していただいています。疑問点等あればその都度対応するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来られた際にはできるだけ状況をお伝えしてお話するようにしています。運営推進会議のメンバーに利用者、家族にも順番に入っていたり、意見をいただいたり、玄関先に意見箱を設置したりしています。	毎月、「バオバブ*ねむだより」を発行し、日常の暮らしぶりや情報を提供して遠隔地の家族にも様子をよく理解してもらい、面会時や色々の機会を捉えて気軽に意見や要望を言ってもらえるように配慮している。運営推進会議や意見箱を設置し、公の場で意見を述べる機会も作っている。初企画の家族、地域、ホーム合同の昼食会では「色々な意見交換が出来て良かった。」と家族から好評を得ており、今後も継続開催していく方針である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング、申し送り、面談等で意見や提案を聞けるように時間を作っています。	副理事長は、運営面に関わる他日常的にケア面に側面的に関わっており、「職員がざくばらんな発言が出来るように努力している」と話している。職員との間に施設長と管理者を配慮し、職員からの意見を吸収する場面も多い。作品作りやピクニック等職員の積極的な発案、意見で実現できている「働き易い職場です」という職員の声を聞くことが出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績を見て給与水準等を考慮しています。職員も自己評価を毎月行うことによって意欲向上につながるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週のミーティングで利用者の変化に応じた介護が行えるようにし、毎月勉強会を行ったり、施設外の研修に参加してスキルアップできるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内外の研修等に参加を勧め、他施設の方々とも意見交換や交流ができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際には事前に本人を訪問させていただき、家族からだけでなく本人からもお話を伺い、信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、面接の際に困っている事や要望をお伺いし、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や家族等のお話を伺う中で、当事業所だけでなく他のサービス利用等のお話もさせていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話を聞くことを大切にして関係づくりに努めています。利用者とできる事は一緒に行い、共に過ごせるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時だけでなく、電話や毎月のお手紙で家族と連絡を取り合い、職員だけではできないところは家族にも協力してもらい、共に本人を支えていけるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所へドライブに行ったり、地域の行事に参加して友人等に会う方もおられます。友人に年賀状を送られたり、定期的に電話でお話される方もおられます。	ホームを取り巻く大自然、室内から見える農作業風景そのものが利用者にとって馴染みの関係にある。反面、関係継続の支援には困難な面が多いので、運営推進会議は地域住民組織の代表者全員参加型を取り入れ、外部者との接触の機会を少しでも多く持ちたいと努力しているのがホームの特色である。公民館や地域の行事には積極的に出向き、友人や地域住民と交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性等に配慮して居場所づくりをします。個々に適した役割を持っていただくことで、共に支え合いながら過ごせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人・家族に会う機会があれば、様子を伺い、必要に応じて相談や支援ができるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接時、契約時、計画更新時、サービスの利用中に、本人や家族から伺い把握できるよう努めています。	施設長自身が「利用者のライフスタイル、個性、価値観の把握、バックグラウンドに関する情報収集を深め、職員全員で情報共有し、介護に活かしたい」年間目標に掲げ、ホーム全体の目標達成計画にも掲げて意識を統一し、利用者の思いや意向の把握に努め、日々の生活を豊かにすることを継続実施している。一対一のコミュニケーションが随所で見られ、利用者の笑顔が見えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、契約時に得た情報だけでなく、サービス利用中に伺い把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の過ごし方や日々変わる状態の変化を把握するように努めています。変化があれば、ミーティングや日誌で共有できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを伺い、意向に沿った介護計画になるよう努めています。	計画書作成において、他事業所の指導を仰いだり、計画作成したことが不作に終わった事例などを模索しながら、思いや意向の把握の重要性に辿り着き、一つひとつ着実に、利用者がより良く暮らすためのプランに繋げるように、大きなケア目標を掲げて頑張っている。開設3年目の飛躍が期待されるホームである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を介護記録に記入して共有・見直しができるようにしています。申し送りで話し合いをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の様々なニーズに可能な限り対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、民生委員、消防団等にも協力していただきながら、安全で豊かな暮らしができるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望のかかりつけ医が定期的に訪問してくれています。何かあればすぐ相談でき、適切な医療が受けられるようになっていきます。	山間地なので入所者の便宜の為、入所と同時に協力医に変更される利用者が殆んどであり、定期的な往診を受けている。随時協力歯科医による口腔チェック指導の往診があり、喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内看護師と訪問看護師に相談でき、適切な看護・受診ができるようになっていきました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	病院関係者とは連絡を取り合って関係づくりに努めており、入退院の際には情報提供や相談をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方については、契約時から家族に説明・意向の把握を行い、重度化の傾向にある場合には再度説明・相談を行います。	山間地にあるホームなので、現状では、常に医療行為が必要になった時点を条件としたラインを引いて、家族に理解してもらっている。開設2年で2件の看取りを行い、昨年は一ヶ月間終末ケアの末、看取りに至った一件の事例がある。いずれも家族の強い要請を受けた事例であるが、過去の尊厳死に携わった職員の経験が活かされた看取りとなり、今後も要請があれば対応していく方針を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し周知徹底を図っています。年1回救急法の研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を消防団や地域の方と共に行い、緊急時には協力をお願いしています。災害マニュアルを地域の方とも共有しています。	運営推進会議では毎回重点的に災害に対する課題を検討し、ホーム、地域、行政が一体となった災害対策が確立している。地域の人と利用者、職員が顔馴染みになり、ホームの様子や利用者一人ひとりの状態を踏まえて非常事態等に活かせるように、関係者が集う交流会(昼食会)を開催する等を目標達成計画に掲げて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修・会議等で学んだり話し合いを行い、配慮に努めています。	施設長は、人として恥ずかしい行為への配慮、介入し過ぎないケア等への深い意識を持ち、職員会議や研修等で話し合っている。「バオバブ*ねむだより」の記事は、利用者と家族の理解を得て登用し、重要記録簿には記号表示をする等、プライバシーの確保には責任ある取扱いと管理を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で思いや希望を伺ったり、選択肢を示して自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等の職員側の都合もあるが、できるだけ希望に沿えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を自分で選んだり、個々の希望で散髪に出かけたりネイルを楽しんだりしています。地域の美容室ではお化粧品もしてくれて喜んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力を活かして、材料の準備をしたり盛りつけをしたり片づけをしたりしています。定期的におやつ作りもして楽しんでいます。	高齢者食に精通した副理事長が献立し、担当職員が調理している。減塩食の献立、協力歯科医の口腔ケアの実践により、利用者の体調が良好に維持できている実績は家族からも高い評価を得ており、このホームの誇れる特徴といえる。行事食や毎月、職員と利用者のクッキングデイがあり、「バオバブ*ねむだより」で利用者の楽しんでいる笑顔を確認する事が出来た。	食後には職員が利用者の中に入って色々な話をしながら笑いの輪を作ってもらいたいと思う。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じてメニューを変えたり、食事量の少ない方には高カロリーゼリー等を加え栄養バランスがとれるように支援しています。食事・水分量を毎回記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、歯科医による口腔指導を受けて清潔保持に努めています。異常があればすぐに歯科医に診ていただけます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう声かけを行い、自立支援に努めています。	このホームは開設3年以来、比較的元気集団である。おむつ、リハビリパンツ、布パンツと様々であるが、一人ひとりの排泄習慣を把握し、トイレ誘導を行うことで、日中は布パンツで過ごせるようになった利用者もいる。継続した「おむつ外そう作戦」等、積極的な取り組みを期待したい。	トイレで排泄するためには歩行が最低条件となる。日々の暮らしの中に、無理なく行える筋力体操や室内ウォーキングをゲーム感覚で取り入れ、排泄関係と同時に体力の維持、向上を期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操、歩行に取り組んでいます。症状がひどい方は主治医にも相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、可能な限り個々の希望に合わせて入浴していただけるようにしています。	通常勤務3人の職員体制を入浴時間は4人体制にして、安心してゆったりと楽しんでもらっている。特に厳冬期のゆったりとした入浴は暮らしの中の大きな楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や体調等に合わせて休息していただいています。できるだけ夜間休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わるごとに日誌や記録等に薬の目的等を記入して情報が共有できるようにしています。処方箋をまとめてファイルして職員はいつでも見ることができます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に合わせて家事等を共に行い役割を持って過ごしていただけるように支援しています。天気の良い日にはテラスでおやつを食べたり日向ぼっこをする等、気分転換にできるよう考えて支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って、散歩やドライブ等に行けるように努めています。地域の行事等に参加できるように促したり、家族にも協力していただいて外出できるように支援しています。	ホームは山間地にありながら、神社、公民館、小学校、重要文化財古民家等が隣接している集落の中心地に位置している。厳冬期には止む無く室内活動を強いられるが、好季節には存分に気軽な外出が出来る環境が整っている。特に公民館活動との連携が強力なので、地域の人や友人に出会える機会も多く、外出時の大きな楽しみとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を紛失される恐れがある為、原則持ち込み・所持はお断りしています。行事の際に施設内通貨を渡して、お菓子等を自由に入れるようにして楽しんでくださっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあれば家族等に確認を取って可能な限り希望に沿えるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁飾りを共に製作して飾っています。不快感や混乱がないように配慮しています。	玄関を入ると中央にリビングルームがあり、その左右の延長に多目的空間と居室が並んでいる。南に面した突起空間にソファコーナーがあり、一人の利用者が昼寝を楽しんでいた。日光浴を楽しめる場所にもなっている。リビング部分は床暖房があり厳寒地にあっても穏やかな暖かみがあり、利用者と職員の合同作品が程良い雰囲気を醸し出して心地良かった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が思い思いに過ごせるようソファや椅子を置き、どこでも自由に過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等、本人の馴染みの物を持ち込んでいただけるように家族に協力していただいています。個々の希望に沿って、本人の作品や家族の写真を飾る等して居心地良く過ごせるよう支援しています。	居室は8畳の広さを確保しており、ベッドと加湿器が備え付けとなっている。整理タンス、家具調ポータブルトイレ等、必要に応じて持ち込んでいる。居室の入り口に「車椅子」「手引き」等、緊急誘導時に参考にする為の利用者の身体状況を表す札を掛けてある事は、命を預かる立場の義務として重く受けとめた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように目印をつけて、自分で判断して行動できるようにしています。		